

富士と御師と信仰



上文司 厚(じょうもんじ あつし)
(北口本宮富士浅間神社宮司・
御師の家上文司家 18 代当主)

おし 御師とは

御師は宿坊施設を持ち、富士講信者の寝泊まりや食事の世話をしている。本来は、旧暦6月1日開山(現在の7月15~20日頃)に始まり、9月10日閉山(火祭りで現在の8月26日)する。

御師は伊勢神宮の御師より始まり、熊野、白山、出雲があるが、伊勢以外は山岳信仰である。

上文司は御師の屋号で、本名は小澤。5代くらい前から屋号が姓になった。戦国時代からの御師で私で18代目になる。昭和60年国学院を卒業して神職の資格をとった。

昔は神官、神主と云った。神職になるには、国学院大学もあり、一番下の資格では、出羽三山、熱田神宮、伊勢神宮、出雲大社、石清水神社の専門学校もある。大阪国学院では通信教育もしている。神職は全国で2万人いる。

全国8万の神社は伊勢神宮を頂点にして、全て明治神宮内にある神社本庁に統括されている。日光東照宮、靖国神社、出雲大社は入っていない。

神宮(じんぐう)と云えるのは伊勢神宮のみ。その他は神宮と云う名前の神社、例えば明治神宮と云う名前の神社と云う事。

北口浅間神社は

北口本宮富士浅間神社は、富士山頂から見て北側の登り口で、吉田口の起点になっている。起源は西暦20年の日本武尊(ヤマトタケルノミコト)の東征時の祈りの場所であり、西暦788年に神殿が作られ、西暦1733から1745年に現在の姿になった。



国道138号に面し、鎌倉往還の途中にある。参道250mの間には仁王門の礎石が残っており、今回大修復の富士山大鳥居は木造では日本一である。『三国第一山』の額は唐、天竺、大和の三国一と云う意味であり、つまり富士山は世界一と云う意味で作られている。

大鳥居は6年に一度の修復となっていて、前回は昭和24年から29年でした。今回の修復では、18mの親柱が見つけれず、強度検査などで問題ないということで、親柱を再利用する修復となった。

参道より、隋神門と神像があり、神楽殿がある。神楽殿では年4回は、大々神楽を舞っている。昭和47年からは薪能を開催している。(今年は8月2日土曜日)

左手の手水舎は富士山から切り出した一枚岩もので日本一かもしれない。確認出来たら宣伝

していきたい。水口の青銅の龍は、戦時中に供出されず残ったもの。

神殿前の神木は1000年、神殿は500年。起源は神木4本の中で拝んだ場所。

東宮殿は、武田信玄公が戦勝祈願で造営、西宮殿は東宮殿より一回り大きく、本殿は更に一回り大きい。三殿とも国の重要文化財で50年の間に作られた。

6月30日が開山前夜祭で8月26日に火祭りで閉山となる。火祭りは富士火山の鎮静が起源と云われるが、社史でもはっきりしない。火祭りでは交通整理がいつも頭の痛い所で、警察等への許認可が非常に大変である。

富士講

富士山は禁足地であったが、山岳信仰が入り、登拝するようになった。

富士講は八百八講といわれ、江戸時代の文化文政のころ(第11代徳川家斉1800年初頭)から賑わった。明治中期以降は仏教色が強いので、かなり低迷した。神仏分離令と東京大空襲が大きな原因。昭和39年にスバルラインが開通して御師の機能がなされなくなった。同年は富士山レーダーが完成、東海道新幹線の開業、第18回東京オリンピック開催と時代の変貌期にも当たっている。

上文司は、昔は御師が主で神楽を舞った時期もある。ここ3代は官司となっている。江戸末期に浅間神社の専属の神主(世襲だった)が絶えて、その時々々の神主となった。世界文化遺産に登録されたのを機に、賑わいを継続していきたい。昔は、富士山は信仰が主であったが、娯楽もあった。今は観光が主だが、信仰などにも

発展していければよいと思います。

質疑応答

Q 「富士」と“わかんむり”なのはなぜ？

上文司:富士山の上には、何も無いからと答えています。富士宮本宮にはついていません。

Q 浅間神社の読みはセンゲン？アサマ？

上文司:古くはアサマ神社で、特別な山をアサマと指した。仙元センゲン、浅間アサマの二つからセンゲンとなった。おみゆきさんという女装した神輿担ぎで有名な笛吹市一宮町の浅間神社は、あさま神社と読みます。

Q 御師に生まれて良かったこと、苦労したことは？

上文司:良かったことは、早くから信仰に触れたこと。苦労したことは、小さいころからお客さんがいっぱい来て、夏は大変だったこと。

Q 信仰の対象は何ですか？

上文司:大祭が農耕から天照大神(アマテラスオホミカミ)であり、皇室の信仰に通じる。中祭・小祭は八百万(ヤオロズ)の神を信じる。毎日が日供(ニツク)祭、月並祭が毎月1日・15日。年間80祭あり、儀式も3種で常装、礼装、正装に分かれている。

Q 神式の葬儀について教えてください。

上文司:葬儀は雅楽を奏でる(祝いとは別バージョン)、玉串をあげて、二拝二拍一礼をする。この時に音を鳴らさずに手を合わす(拍手)。江戸時代までは、神主も仏式だった。神葬祭は明治以降で新しい方式。

(富士五湖クラブ・2014年4月例会卓話)